

⑤仲町台から大熊川・鶴見川の堤を歩く

催行日 5月25日(水)

仲町台駅(集合 9:00)→折本町農専地区→大熊川→真照寺→(早苗地蔵⇒西原公園)→大熊杉山神社→大熊地蔵尊→大熊川鶴見川合流地点(大竹橋)→鶴見川堰堤を上流へ→庚申塚より川向町へ →解散(バスで新羽または仲町台へ)

*C班は鶴見川合流点から新横浜へ向かいます。



折本農業専用地区の風景



切通しを下る道

。。

仲町台駅、駅前ロータリーを左方向(南方向)の歩道に続く、陽光陸橋（S59.3 竣工）で幹線道路（新横浜元川）を超え、住宅地を 200m ほど先の階段を上ると、畑と林が混在する風景が広がります（折本農業専用地区）。晴れた日には富士山や丹沢山系が見えます。畑を横切り、切通しを南に下ると大熊川沿いのバス通りにでます。大熊川沿いには、都市近郊の農村の風景が広がっています。折本洋蘭園などがあります。堰上橋を渡ると「堂ヶ坂の切り通し」です。右手の坂の上には「真照寺」、左手には「早苗地蔵」があります。



折本の洋ラン園のハウス



↓ 堂ヶ坂の切通しと真照寺橋の今昔 ↑

堂ヶ坂の切り通し

切通しは昭和9年に道路となり、用水は地下水路となっています。今は崖地もコンクリート化されていますが、切通しだったころの面影はあります。

真照寺（真宗大谷派）永禄6年(1563年)開基

「大いなる田舎」「赤城の子守唄」「人生劇場」「六甲おろし」などの作詞でこの地を愛した詩人佐藤惣之助や歌人大野林火等の残した句碑、詩碑が境内にあります。横浜市指定の名木古木の白モクレン（春の彼岸の頃が花見時）をはじめ、四季を通じて様々な草木や花が咲きます。南側の畑から寺の白壁を見る風景は趣があります。



切通しの上の小さな真照寺橋を渡ると、右手に早苗地蔵があります。その先を真っ直ぐに東へ進むと右手に西原公園（トイレあり）があります。さらに直進し幹線道路（新横浜元石川線）を彌生橋で越え、さらに真っ直ぐ行くとKDDの鉄塔がありますが、その横を過ぎて折本貝塚橋で第三京浜を渡ると右手に大熊杉山神社が現れます。

早苗地蔵

折本地区に用水を引くために切通しを作った、了信という僧とその娘を祀っている。京都からの旅の僧、了信は農民の困窮を救おうと、切通しを掘続けたが土砂崩れにより亡くなってしまいます。

苦難の末、用水路は1539年(戦国時代、天文年間)に完成する。村人たちは感謝の気持ちで、1662年に了信の地蔵、1682年には娘つがの地蔵を祀りました。以後、豊作を願って若い苗をお供えたことから「早苗地蔵」と呼ばれるようになった。

大熊杉山神社

創立年代は不詳であるが、往古より当地の鎮守として住民の信仰の中心となっている。明治6年村社に、明治42年村内の熊野社・面足社・御歳社を合併後、神明社をも合祀した。

大熊子育て地蔵

明治42年に数か所にあった地蔵様を集めて安置、昭和57年に現在の場所に御堂が新築された。

安産・子育て・イボ取りの霊験あらたかとか、8月24日が地蔵様の縁日です。



大熊川・鶴見川合流点

熊杉山神社から下ると大熊川にでる、大熊川に沿って200m程行くと、緑産業道路を大竹交差点で渡ります。ここにも船着き場があったとのこと。さらに大熊川の堤防を下流に500mほど進むと鶴見川との合流点です。(東方池(龍雲寺)から2.8kmの大熊川の終点)

横浜環状北・北西線の工事中です。トラス構造の2階建ての高速道路がつくられています。

崎陽軒横浜工場

第3京浜の港北ICと鶴見川に挟まれた場所に、シュウマイの崎陽軒の工場があります。工場見学は予約が常に満杯で殆ど不可能ですが、売店・展示コーナーでも楽しめます。

(横に鶴見川流域センター更に幹線道路に沿って日産スタジアム方向に進むと、大きなアンテナが建っている建物の横に鶴見川流域センターの建物があります。)

鶴見川の交番跡(川向橋のたもと)

小机大橋で幹線道路の下をくぐり、鴨居方向に進むとか川向橋があります。

西条八十の父の実家

大正時代に「かなりや」をはじめ「てんてん手まり・・・」の歌などで童謡作家として地位を築き、戦前、戦後に「東京行進曲」、「青い山脈」、「蘇州夜曲」、「王将」など無数のヒットを放った。戦後は日本音楽著作権協会会長を務めた。1882年(明治25年)-1970年(昭和45年)78歳

西条八十の父(志田重兵衛)は都筑郡川向村の農家の次男。牛込区牛込払方町(新宿区払方)質屋西条家の番頭になったが、明治10年に夫婦養子となり西条家を継いだ。

(西条家の跡取息子が挙式直前に病死したので、番頭を急遽婿養子にして結婚させた)

八十は子どもの頃、志田家に遊び来て、川向橋から鶴見川に飛び込んで遊んだという。

※長男八束氏の「父、西条八十」の中にも晩年に川向の志田さん宅を訪問した記述があります。

*仲町台から大熊川・鶴見川のコースは良くご存じと思いますので、雑学をいくつか紹介します。

1) 仲町台駅周辺

仲町台駅 1993年3月に地下鉄ブルーラインの新横浜・あざみ野延伸に伴い開業。
せせらぎ公園方向にはちょっとしゃれた街並みがあり、ドラマや映画の撮影にも良く使われています。なぜか飲食店が多い。(居酒屋からおしゃれなカフェや女子会向きのレストランなど)

2) 港北NTには高圧送電線が多い。

大熊町の高台から港北変電所を眺めると送電線・鉄塔が、絡みあうくらいに見えます。
港北変電所(港北新羽 仲町台から東に1 km) 仲町台近辺の中央分離帯にある超高圧送電線は港北線、西東京変電所(町田)から港北変電所(港北区新羽)までを鉄塔57基で結んでいます。(27.5万 volt)高さ約70mの鉄塔で35番~52番が中央分離帯にあります(昭和47年設置)仲町台近辺では、橋本線(橋本変電所から港北変電所)15万 volt もあります。
変電所で6,600Vまで下げ、普通に見る電柱で配電、柱上トランスで100又は200ボルトに下げて、家庭に配られている。

3) 新横浜公園

新幹線以前は、横浜市内最大の水田地帯で、鶴見川を中心に一面の田畑が広がっていた。
今の横浜公園(港北ICから新横浜)付近は所謂、鶴見川の氾濫原で湿地帯であった。
新横浜公園が遊水地になっているおかげで、鶴見川の下流はなんとか、氾濫せずに済んでいます。
ラポールの駐車場の入口に「大雨の場合は浸水します」の注意書きあり。 浸水した後は駐車場の床は泥々、柱には背よりも高い所に泥水の後があったのを覚えています。1992年まで港北IC~新横浜は沼地の中の道だったと記憶しています。

2014年10月6日 台風18号



4) 新横浜駅の歴史

1964年に新幹線の開通に伴い開業、翌年に環状2号(駅前の大通り)が開通し、1976年にひかりが停車。この頃から、企業やホテル等ができ発展。2008年3月からは「新幹線全停車」横浜アリーナ(1989年)や、新横浜プリンスホテル・ペペ(1992年)、2002FIFAワールドカップの決勝戦が行われた横浜国際総合競技場(日産スタジアム 1989年)で知名度が一気に上がった。
1985年3月に地下鉄が開業し、1993年3月には あざみ野駅までの延伸。横浜労災病院 1991年6月、ラポール(障害者スポーツセンター) 1992年8月、キュービックプラザ(駅ビル 2008年3月)と継続的に発展しています。

5) 新横浜駅前の工事 (新横浜駅から相鉄線・東横線との接続が) 2019年に神奈川東部方面線(西谷~日吉)開通予定で、相鉄線方面・東横線方面からの利便性が向上する予定。

6) 新横浜駅の不思議

新横浜駅では横浜線の定期券が買えない、JR東日本発行の周遊券(北陸周遊券など)は買えません。隣の小机か菊名の緑の窓口に行けと言われる。(JTBなどでも買えますが)
※新横浜駅はJR東海の管轄で、JR東日本の横浜線の駅は間借りらしい。

7) 新横浜駅篠原口方面は、何故未開発のままなのか

西武（堤康次郎会長・代議士）が、1959年に駅予定地の8千坪買収、1961年に国鉄に売却（2億円の差益、現在価値で20～30億）（なお堤康次郎は1964年開通前に死去）

1989年横浜アリーナや1992年新横浜プリンスホテルの建設があり、プリンスホテルの建設を巡って旧地権者と市、西武とのいさかいが再び起こる。

1989年地権者が横浜市長を提訴（交換は等価でなく21億円の損害請求）

1996年東京高裁が住民側の控訴棄却（当時の市の土地価格評価は適切だった）

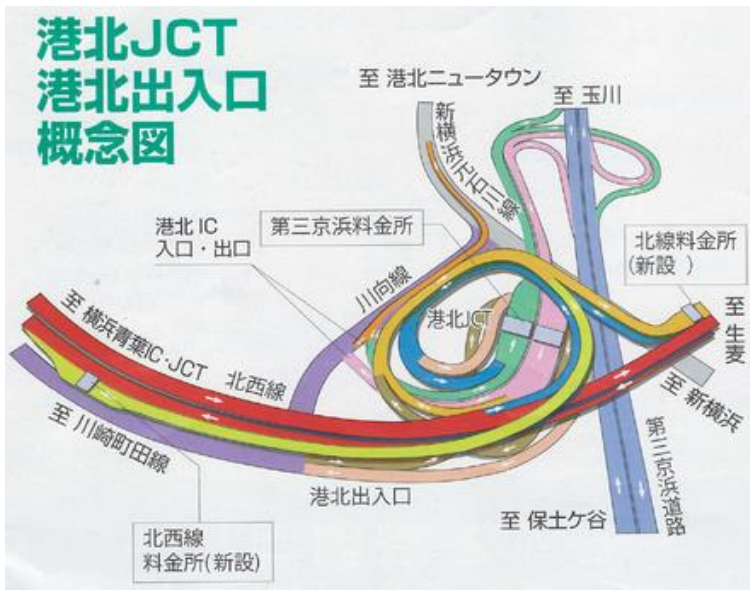
1994年に篠原口側の区画整理が発表されたが、一切進まず10年後に失効している。

※こじれてしまったままです。

8) 第3京浜 港北インター



昭和40年、田んぼの中に第三京浜高速道路が出現！第3京浜港北IC 1965年12月開業



8) 都筑郡の神社：杉山神社とは。横浜市に34社、川崎市に3社あり、他に町田市や稲城市に数社ある以外は全国的にはない。横浜周辺限定の神社です。10世紀の『延喜式神名帳』に格式の高い式内社として記載あり。全国で2861社、武蔵国には44社あったが、都筑郡、橘樹郡、久良岐郡の中で唯一の式内社が杉山神社なのです。

ただし、神名帳に記載された杉山神社が、現在のどの神社を指すのかは、不明。

「杉山神社の論社と比定される神社

は4社、緑区西八朔町の「西八朔社」、都筑区中川町「大榎社」、都筑区茅ヶ崎町の「茅ヶ崎社」、港北区新吉田町の「吉田社」と言われている。

9) 40町はどれくらい

堂ヶ坂の切り通しで折本耕地40町歩の水田に水を引いた。

1町(10反)=10,000㎡(100m×100m) 40町=400,000㎡(400m×1000m)位
どれくらいお米のが取れたのか。

- 江戸時代は1反当たり200～250kg(3～4俵)、現在は倍の約480kg(8俵)の収量。(上田2.5石375kg、中田2石300kg、下田1.5石225kg/反と評価されていた。)

一石は約 180 リットル (約 150Kg 2,5 俵) で、1 人が 1 年間に食べる量。

(昭和 35 年で 120kg、現代人は 60kg/年しか食べていませんが)

→40 町 (400 反) の田で、800 石の収穫。(800 人分の食糧)

耕作可能面積からの推察:約 2 反/人と言われていた。(班田収受の時代から)

→40 町 (400 反) の田で、200 人の大人換算 (多分家族を入れても 400 人)

A/B 班は大熊川と鶴見川の合流点から上流に向かいます。堰堤のわきには春の野草が咲き誇っています。20 分も歩くと右下に庚申塔が見えてきます。川戸はそこで別れ土手を下ってバス道路を渡り、川向町のバス停から戻ることになります。が、元気な方は堰堤を歩き、鴨池人道橋を渡って鴨居の駅まで頑張ってみましょう。また川向町のバス停を通過してヤマザキパンの工場を右手に見て江川せせらぎ緑道の出で緑産業道路に出てバスで帰ることもできます。



大熊川土手を歩く



鶴見川との合流点に架かる橋 (トラス構造)



鶴見川の向こうに日産スタジアムが



第三京浜が小机城を分断しました

バス

川向町折返場 41 系統 新横浜行(新羽経由)12:04 12:34

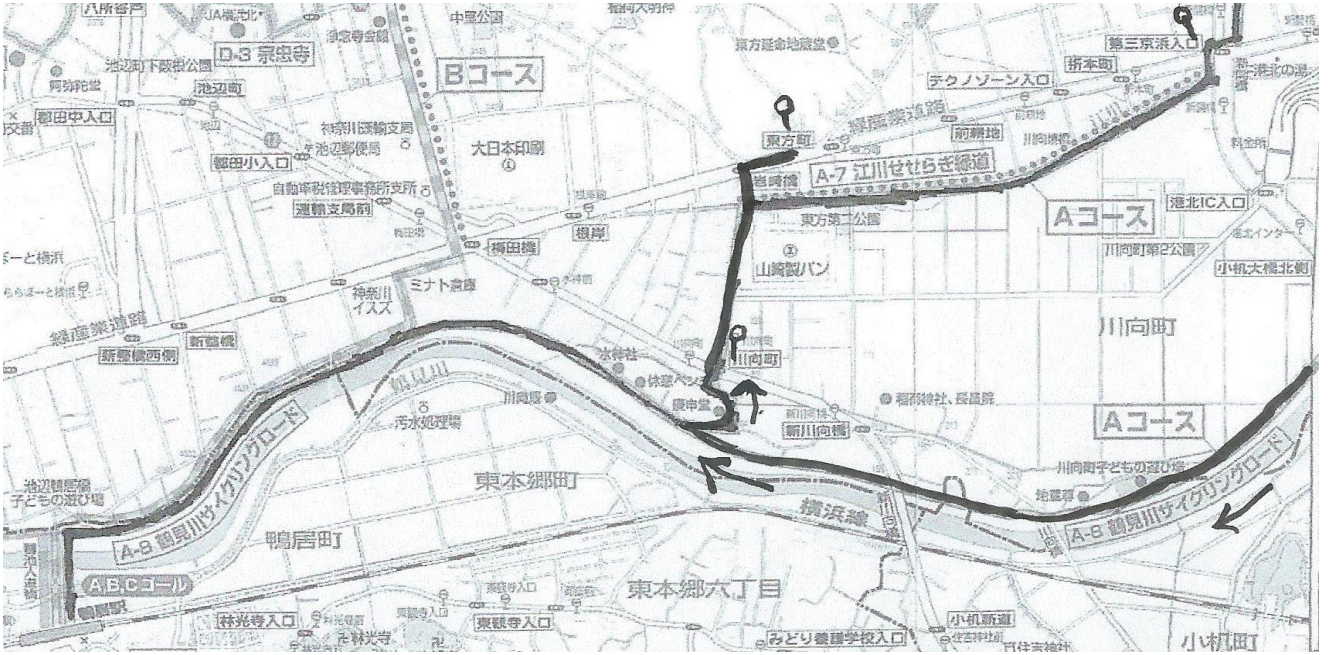
東方町(緑産業道路) 41 系統 新横浜行(新羽経由)12:06 12:21 12:36 12:51 41 系統 中山行 12:01 12:17 12:31 12:46

310 系統 仲町台行 11:25、12:26

310 系統 川和町・センタ南行 11:55、12:57

新川向橋 03 東急 新横浜行 12:13 12:33 12:53

03 東急 市が尾(川和)12:13 12:33 12:53



折本近辺の観音様と地蔵様：
 折本小学校創立 35 周年記念誌「わたしたちのまち」
 (1985 年)を折本町内会で HP 紹介